

# とみちゃんの協働通信 Vol.1

～講座を通して、とみちゃんが協働を学びます～

**第1回9月25日開催**  
**(参加者109名)**



やあ、みんな！富里市のアイドル、とみちゃんだよ！

富里市では協働のまちづくりを推進していて、9月からは新たに毎月連続で協働のまちづくり講座（全6回）が始まり、たくさんの市民と市職員が参加したよ。

第1回目のテーマは「自治体の現状と課題」ということで、講師に千葉大学法経学部准教授の関谷先生、ファシリテーター（司会）にまちづくりプロデューサーの中村さんをお招きしたよ。

〈相川市長挨拶より抜粋〉

富里市では協働のまちづくり条例・推進計画に基づき、協働のまちづくりを進めています。市民活動推進課が主体的に進めています。市職員全員が協働を理解し、職員がまちづくりに参画していかなければ、市民の皆さんもまちづくりに参画してくれないと私は考えています。

今回の参加者の中には、条例・計画策定に携わっていただいた市民の皆さんも見えますが、行政と市民が一緒になって富里市の明るい未来を築いていければ幸いです。



講座での相川市長の挨拶。富里市では、市長の言うとおりの市民の皆さんが計画策定に携わったり、市民活動などでまちづくりに参画し始めてはいるんだけど、まちづくりに参画している人は一部の人に限定されていて、まだまだ市全域に協働のまちづくりが浸透しているとは言えないんだ。この講座を通して、協働が広まっていけばいいな。



ところで・・・「協働」ってどういうことか僕も良くわかっていないんだよなあ。協働ってどういうこと？なぜ今、協働が必要なの？教えて、関谷先生！

「協働」とは新しいまちづくりの手法で、簡単に説明すると地域の皆で地域の課題解決に向けて取り組んでいこうということだよ。

従来は「行政の無謬性の神話」といって、市民生活のあらゆる課題を行政が解決するという構造だったんだけど、現在では少子高齢化問題をはじめとする様々な社会問題が噴出し、市民のニーズも複雑・多様化してきた。だから、行政のみによる公共サービスでは、肥大した市民のニーズに網羅的に応えることには限界があり、「無謬性の神話」は過去のものとなったんだ。

また、課題解決は、問題を抱えている現場に最も近いところから取り組んでいかなければならなくなり、行政については地方分権によって身近な政府を活性化させ、市民については地域コミュニティで相互の支え合いを活性化させていく必要があるんだ。

持続可能な地域社会とするためには、誰かに任せておけばいいのではなく、地域や団体の壁を越えて、様々なアイデアや取り組みを持ち寄り、課題解決のための連携を作り出していくことが大切だね。もはや協働なくして地域の存続は不可能といっても過言ではない状況なんだ。



講師兼  
アドバイザー  
関谷 昇先生



なるほど～。従来の行政任せのまちづくりではダメで、市民としてできることは協力（自助・共助）してやっていかなければならないんだね。行政も協働でできそうな事業を市民に提案するなど、協働を探っていく努力が必要だね。

協働がどういうものでなぜ必要なのかわかったけれど・・・具体的に僕は富里市のために何をすればいいんだろう。富里市ではどういうことが問題になっているかわからないや。教えて、中村さん！

協働がどういうものかわかったかな。とみちゃんの言うとおりに、協働のまちづくりを進めていくためには、地域の課題を把握して、皆で共有して、皆で解決策を見つけなければならないんだ。だから、次回以降の講座ではもっと具体的に、富里市の課題を掘り起こして、皆で解決策を探っていくよ。



ファシリテーター  
(司会)  
中村 正樹さん

#### 〈次回の講座の日程〉

第2回	10月23日(火)	地域福祉と市民協働
-----	-----------	-----------



次回のテーマは「地域福祉と市民協働」かぁ。市民活動推進課によると、高齢者福祉に重点を置いて、市役所の高齢者福祉課と高齢者福祉を活動分野としている市民活動団体が現状と課題を説明してくれるみたいだよ。富里市の課題が見えてくれば、僕にできることがわかるかも。次回も講座に参加して皆と一緒に考えてみよっと！協働のまちづくりを考える上で重要なのは、「自分はその分野には関係ない」と他人事のように捉えてはいけないということ！地域の課題は、地域の皆で解決しよう。次回も是非参加してね！